

観天 望気

持続可能な物流へ、やればできる！

「物流の2024年問題」今までどおりにモノが運べない。物流関係者以外の方々でも一度は耳にされているのではないかな。

この2024年問題は、物流改善への取り組みを必須とするターニングポイントである。長きにわたり根幹にある「ドライバー不足、ドライバー確保」という課題への解決に向けて、正面から挑むことが求められているのだと考えなければならない。

しかし、生産者から消費者までサプライチェーンのプレーヤーは、経済活動のすべてが物流なくして成り立たないことに、思いのほか無意識である。それは、近代史のなかで、「モノが運べなかったことはない」という事実と、「モノは運べて当たり前前」という思いが強くなるためともいえよう。

一次産業の現場では、生産者は資材や飼肥料などの調達物流なくして生産はできない。また生産したものを市場に届ける販売物流なくして経済活動は成り立たない。かたや物流関係者は、物流＝輸送の仕事がなければ、事業は成り立たない。生産者と物流関係者は、本来、共存共栄の関係にある。しかし、物流関係者は長年、過当競争にあり、荷主である生産者のほうが強い立場にあったため、共存共栄の考えが忘れられているのではないかな。物流現場の条件（ドライバーの労働条件）を、他産業レベルに改善することが、物流と経済活動を持続可能とするのだと考えられないだろうか。

コンサルタントとして40年近く物流現場にかかわってきた経験から、その現場には、改善の余地が相当あると思っている。荷待ち時間の解消、手荷役と長い作業時間の改善、パレットの導入、車両の大型化、予冷などの技術活用、納期の見直しなどなど。関係者の理解と協力、少しの工夫で、改善できた現場を幾つも経験してきた。物流現場の改善、今まで真剣に考えず、やってこなかった、やらなくても済んできた。しかし、やってみよう！ やればできる！

真の共存共栄、Win-Winを心から願う。



大島 弘明

流通経済大学 流通情報学部 教授

おおしま ひろあき

1964年東京都生まれ。日本大学理工学部卒業。88年日通総合研究所（現NX総合研究所）入社。物流事業の環境変化や労働・安全問題、物流効率化対策などのコンサルティングに従事。2024年4月から現職。主な著書「ドライバー不足に挑む！」（輸送経済新聞社）。